

令和3年度 年間授業計画 都立板橋高校

教科・科目	芸術(音楽)・音楽 I	2単位	対象学年・組・区分	1年12・3・45・67必修選択
教科書 ・副教材等	改訂版 高校生の音楽 1(音楽之友社)	教科 担当者	芸術(音楽)科 山崎	

目 標	一学期	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
	二学期	音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高める。
	三学期	音楽の創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	ギター 楽典 音楽史	24h	オリエンテーション 楽器の構造、歴史 校歌 楽譜の読み方・音名・音部記号・コード 音について
	5月			
	6月	ギター 楽典 ミュージカル		
	7月			
二 学 期	9月	歌唱 リズム 鑑賞	28h	日本の歌、世界の歌、基礎的な発音 ボディ・パーカッション・アンサンブル 表現形態のいろいろ、伝統音楽、諸外国の音楽
	10月			
	11月	歌唱 キーボード 創作		
	12月			
三 学 期	1月	アンサンブル	18h	グループ音楽表現活動 プログラムを作り、演奏発表
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	【評価の観点】
	1.知識・技能： 楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。 2.思考力・表現力・判断力： 演奏や楽曲を多角的に解釈することができる。社会における音楽の役割、価値を考えて創造的に表現できる。 3.主体的に学習に取り組む態度： 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。 【評価の方法】実技試験、出席状況、授業態度、レポート・授業内筆記テスト、提出物を総合して評価する。

令和3年度 年間授業計画 都立板橋高校

教科・科目	芸術(音楽)・音楽Ⅱ	2単位	対象学年・組・区分	2年12・3・45・67組必修選択
教科書 ・副教材等	改訂版 高校生の音楽 2 (音楽之友社)	教科 担当者	芸術(音楽)科 山崎・立花	

目 標	一学期	音楽を愛好する心情を育てる。
	二学期	音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽文化の理解を深める。
	三学期	個性豊かに創造的な表現をするための技能を身に付ける。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	ギター 楽典 鑑賞	24h	ギターの構造、歴史、種類 コードについて 音名、変化記号、コードネーム 現代の音楽、ポピュラー、ジャズ 音とは
	5月			
	6月	ギター 楽典 鑑賞		
	7月			
二学期	9月	リズム 楽典 鑑賞	28h	ポディーパーカッション 音程 ロマン派の音楽
	10月			
	11月	キーボード 歌唱 楽典 鑑賞		
	12月			
三学期	1月	アンサンブル 鑑賞 諸民族の音楽	18h	グループ音楽表現活動 プログラムを作り、発表 中世、ルネサンスの音楽 祈りと音楽、叙事詩と音楽
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	【評価の観点】
	1.知識・技能: 楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。 2.思考力・表現力・判断力: 演奏や楽曲を多角的に解釈することができる。社会における音楽の役割、価値を考えた創造的に表現できる。 3.主体的に学習に取り組む態度: 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。 【評価の方法】実技試験、出席状況、授業態度、レポート・授業内筆記テスト、提出物を総合して評価する。

教科・科目	芸術(音楽)・保育音楽	2単位	対象学年・組・区分	3年必修選択
教科書 ・副教材等	プリント等	教科 担当者	芸術(音楽)科 山崎	

目 標	一学期	鍵盤楽の演奏に関する基礎的知識・技能を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
	二学期	鍵盤楽器の演奏に関する応用技能を習得させ、感性を高める。
	三学期	音楽の創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	月	単元	時間	学習内容
一学期	4月	音楽理論Ⅰ 鍵盤楽器の演奏法 基礎	24h	音符・休符・音階について 左右の指番号 運指練習 片手での練習
	5月			
	6月	同上		脱力の練習 両手の練習 各自の力量に合った曲を練習し、発表
	7月			
二学期	9月	音楽理論Ⅱ 鍵盤楽器の演奏法 応用	28h	拍子とリズム 記譜理解と読譜 さまざまな演奏技法の習得
	10月			
	11月	同上		自由曲演奏・伴奏法 発表会
	12月			
三学期	1月	音楽理論Ⅲ	18h	楽典総まとめ・演奏練習総まとめ
	2月	まとめ		発表会
	3月			

評価の観点 ・方法	〔評価の観点〕 1.知識・技能: 楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。 2.思考力・表現力・判断力: 演奏や楽曲を多角的に解釈することができる。社会における音楽の役割、価値を考えて創造的に表現できる。 3.主体的に学習に取り組む態度: 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。
	〔評価の方法〕実技試験、出席状況、授業態度、レポート・授業内筆記テスト、提出物を総合して評価する。

令和3年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	芸術・美術 I	2単位	対象学年・組	1年1・2、3、4・5、6・7組必修 選択
教科書 ・副教材等	高校美術1（日本文教出版）	教科 担当者	芸術科 佐々木 悠輔	

目 標	一学期	・自分自身を見つめ、前向きになれる色や形を探る。 ・過去の作品が描かれた背景や作者の思いに触れ、絵画表現について学ぶ。
	二学期	・社会の中でのデザインの役割を知り、伝えたいことを形にする。 ・身近にある日本の自然を基にして、感じたものを作品に表現する。
	三学期	・彫刻による表現の幅を広げ、造形活動の喜びを知る。

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	オリエンテーション ファイルの表紙制作	24h	・美術 I の授業内容・授業の注意事項を把握する。 ・自分の名前をロゴマークにして、色で表現する。
	5月	絵画の描き進め方		・絵を描くためのポイントを踏まえ、組み立て方を学ぶ。道具の使い方を工夫したり、色彩についての知識を身につける。
	6月			
	7月			
二 学 期	9月	文字のデザイン・自分の 書体をつくらう	28h	
	10月			
	11月			
	12月	創作和菓子制作		・紙粘土を用いて、日本人の四季に対する感覚を形にする。
三 学 期	1月	レリーフを用いた看板 制作	18h	・彫刻刀によるレリーフの表現を学ぶ。イメージした形を立体で表現する際に、様々な彫刻の技法に触れる。
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	・出席状況、課題の提出状況、授業態度（意欲的・主体的に学習に取り組んでいるか）、制作した作品、ワークシート・振り返り等を総合して評価する。
--------------	---

令和3年度

年間授業計画

都立板橋高校

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	2単位	対象学年・組	2年1・2、3、4・5・6・7組必修 選択
教科書 ・副教材等	高校美術2（日本文教出版）	教科 担当者	芸術科 佐々木 悠輔	

目 標	一学期	・これからの授業を通して目標意識を持つ。木彫の魅力を知り、造形表現を学ぶ。
	二学期	・自由な世界観でのものづくりを体験し、イメージを形にしていく面白さを知る。
	三学期	・各国の文化を反映した内容を組み合わせて、象徴的なデザインを構成する。

学 期	月	単 元	時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	オリエンテーション	24h	<ul style="list-style-type: none"> ・美術Ⅱの授業内容・授業の注意事項を把握する。 ・今後の制作内容に合わせて目標を立てる。
	5月	木でつくるスプーン		
	6月			
	7月			
二 学 期	9月	ブック型ボックスアート	28h	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな本や表現したい内容に合わせたボックスアートを作成する。立体的なものに対して、絵の描き方を工夫して進めていく。イメージが形になる過程を楽しむ。
	10月			
	11月			
	12月			
三 学 期	1月	自分の国の記念切手	18h	<ul style="list-style-type: none"> ・実在する国や空想の世界を対象にした切手のデザインを考える。水彩による描き方を確認し、選んだ国の文化に合わせた内容で作り上げる。
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	・出席状況、課題の提出状況、授業態度（意欲的・主体的に学習に取り組んでいるか）、制作した作品、ワークシート・振り返り等を総合して評価する。
--------------	---

令和3年度 年間授業計画 都立板橋高校

教科・科目	芸術 ・ アートとデザイン	2単位	対象学年・組	3年必修選択
教科書 ・副教材等		教科 担当者	芸術科 佐々木 悠輔	

目 標	一学期	・学校行事に関連したポスターのデザインを通して、制作した内容が役に立つ経験を得る。
	二学期	・人体の構造を意識することで、ものの見方に対する視野を広げる。 ・自身を動物に例えて、表現したい形を表現する面白さを体験する。
	三学期	・紙の素材に触れながら、特性を活かした表現について考える。

学 期	月	単 元	時間	学習内容
一 学 期	4月	オリエンテーション	24h	・今年度の授業内容を確認し、目標を立てる。
	5月	文化祭ポスター制作		・アイデアスケッチや下書きの進め方を学び、水彩絵の具による表現を実践する。文化祭を題材に、見る側が楽しめるデザインを表現する。
	6月			
	7月			
二 学 期	9月	人物クロッキー	28h	・人の身体の構造について学び、描いていく。
	10月	彫刻動物園		・自分の性格を動物に例えた場合に想像したものを、紙粘土を用いて作っていく。クロッキーを通して学んだ身体の構造を生かした骨組みと肉付けをする。
	11月			
	12月			
三 学 期	1月	紙のランプシェード	18h	・紙の特性を生かしたランプシェードを作成し、光が透過した様子を鑑賞し合う。
	2月			
	3月			

評価の観点 ・方法	・出席状況、課題の提出状況、授業態度(意欲的・主体的に学習に取り組んでいるか)、制作した作品、ワークシート・振り返り等を総合して評価する。
--------------	---

令和3年度年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	芸術:書道 I	2単位	対象学年・組	1年1・2、4・5、6・7組 必修選択
教科書 ・副教材等	書道 I (教育出版)	教科 担当者	保田 美永子	

目 標	一学期	用具用材の名称とその扱い、執筆法、用筆法など基礎的・基本的なことを身に付ける。 文字に関する知識を深める。
	二学期	書の分野の理解と古典学習の意義の把握。
	三学期	かなの種類とその成り立ちとかなの書美の鑑賞。 古筆の臨書

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	書の美を求めて	24h	用具用材、執筆法、用筆法を理解し、表現方法を身に付ける。筆順等、文字への関心を高める。 グループ書(協力して一作品を仕上げる)
	5月	楷書の学習・書の歴史		古典の学習を通して、さまざまな美しさを味わい、書写能力の向上とともに、創造的な自己の表現を求めて学習する。時代背景を理解し、書風の違いを学習する。
	6月	楷書の学習		古典作品の臨書を通じて古人の書の表現を学習する。時代背景を理解し、書風の違いを学習する。
	7月	楷書の学習・漢字仮名交じりの書		古典作品の臨書を通じて書写文字と活字との違いや決まりごとを学習する。時代や個性を理解して、表現の違いを学習する。各自感性にあった詩文を用い、表現する。楷書の用筆法を身に付ける
二 学 期	9月	行書の学習	28h	古典作品の臨書を通じて行書の用筆法や呼吸を身に付ける。
	10月	行書の学習		古典作品の臨書を通じて行書の用筆法や呼吸を身に付ける。中国の古典と日本の古典の違いについて理解する。
	11月	条幅作品		条幅に臨書作品を制作
	12月	条幅作品		楷書又は行書5文字の条幅作品の製作(全国書初め大会出品予定)
三 学 期	1月	条幅作品:かなの書の学習	18h	かなの種類、成り立ち、用筆法の学習
	2月	仮名の書の学習		仮名の書の鑑賞と臨書
	3月	生活の中の書		短冊、料紙を使い、かな臨書作品を制作し、それを生活の中に生かす。

評価の 観点	書に対する関心、意欲、態度、芸術的な感受や表現の工夫、創作的な表現の技能、鑑賞能力、日々の積み重ね等を総合的に評価する
-----------	---

令和3年度 年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	2単位	対象学年・組	2年1・2、4・5、6・7組 必修選択
教科書 ・副教材等	書Ⅱ(教育図書)	教科 担当者	保田 美永子	

目	一学期	書道Ⅰで学習した楷、行、草の他篆書、隸書を加え書体の変遷を学ぶ。 篆刻にも共通する多様な書美への関心を深め美を追求する姿勢を確立させる。
	二学期	隸・草・行・楷書の臨書学習から創作へ発展・条幅作品の制作。
標	三学期	かなの種類とその成り立ちとかなの書美の鑑賞。 古筆の臨書

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	書的美を求めて： 書の変遷	24h	用具用材、執筆法、用筆法を理解し、表現方法を身に付ける。筆順等、文字への関心を高める。書の変遷を理解する。 全紙にグループ書(協力して、一つの作品にまとめる)
	5月	篆書：篆刻		用筆法文字の形がどのように変遷したのかを、臨書学習で確認する。 篆刻が書の分野であることを印の歴史より理解させ、雅印作成の第1段階の印稿を作る。
	6月	篆刻		字入れ、運刀、押印、補刀
	7月	篆刻		押印、印譜作成 創作作品を仕上げ、押印する。
二 学 期	9月	隸書、臨書による作品	28h	篆書から隸書へ 曹全碑、乙瑛碑、木簡
	10月	臨書による作品 草書・行書		十七帖、書譜、集王聖教序
	11月	臨書(行書)創作		祭姪文稿等、個性豊かな書の臨書 語句、形式、書体、書風等、各自で決めて作品創作
	12月	創作		祭姪文稿等、個性豊かな書の臨書 語句、形式、書体、書風等、各自で決めて作品創作 できあがった作品の鑑賞
三 学 期	1月	かなの書の学習：	18h	かなの種類、成り立ち、用筆法の学習
	2月	かなの書の学習 ：漢字仮名なじりの書		仮名の書の鑑賞と臨書 現代文の表現
	3月	生活の中の書		短冊、色紙を使いかな臨書作品を制作し、それを生活の中に生かす。

評価の 観点	書に対する関心、意欲、態度、芸術的な感受や表現の工夫、創作的な表現の技能、鑑賞能力、日々の積み重ね等を総合的に評価する
-----------	---

令和3年度 年間授業計画 都立板橋高等学校

教科・科目	芸術(書道) 現代書と実用書	2単位	対象学年・組	3年 必修選択
教科書 ・副教材等		教科 担当者	保田 美永子	

目	一学期	各々の自選の法帖を手本にした臨書の制作。展覧会への出品も考えた作品集の制作。
	二学期	古典の仮名の臨書・細字・大字の学習。篆刻で文章を彫る実技。
標	三学期	漢字仮名交じり文創作。

学 期	月	単 元	実時間	学 習 内 容
一 学 期	4月	展覧会への出品を見据えた、大作に挑戦 実用ペンの練習・検定試験の理論	24h	各々の自選の法帖を手本にして臨書を進め、作品集のように一冊にまとめる。それを基盤に大作に挑戦し、展覧会への出品も考える。 毎時間、実用ペンの練習や検定試験の理論を学習する。
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	9月	古典の仮名の臨書・細字・大字の学習 実用ペンの練習・検定試験の理論	28h	古典の仮名の臨書 細字・大字の学習 毎時間、実用ペンの練習や検定試験の理論を学習する。
	10月			
	11月	篆刻で文章を彫る実技を行う。 実用ペンの練習・検定試験の理論		篆刻で文章を彫る実技を行う。 毎時間、実用ペンの練習や検定試験の理論を学習する。
	12月			
三 学 期	1月	漢字仮名交じりの書	18h	漢字仮名交じりの文創作
	2月	個別学習		個別指導
	3月	個別学習		個別指導

評価の 観点	書に対する関心、意欲、態度、芸術的な感受や表現の工夫、創作的な表現の技能、鑑賞能力、日々の積み重ね等を総合的に評価する
-----------	---